

# 乳がん高度検診・治療センター

## 高い専門性とチーム医療の追求 女性の目線をプラスして

今年、平成30年6月から、新たな乳腺外科医師が加わり、乳腺外科は、常勤医4名に非常勤医が2名の計6名体制に。常勤医4名の内、3名が女性医師となります。大阪府南部の乳がん治療拠点へと成長を続ける当センター、そのこれからを担う3名の女性医師の、乳がん治療への思い――



高橋 裕代  
(乳腺外科医長)

西前 綾香  
(乳腺外科医長)

大城 智弥  
(乳腺外科副部長 兼 副センター長)

## 高い専門性を持つスタッフの連携が 医療の質を生む

### チーム医療の柱となる稲治先生

【大城】高橋先生がこのセンターに来て、一ヶ月半ほど経ちましたね。

【高橋】まだ一ヶ月半ですか！という感じですが(笑)。市立貝塚病院の乳がんセンターは、チーム医療を伝統としていると伺っていましたが、本当に風通しがいいなと思います。

【大城】他科との距離が近いんですよ。精神的にも物理的にも(笑)。形成外科や病理科の先生にも、何かあれば直接聞けるし相談できます。こうした風通しのいい関係が、チーム医療の基本ですから。この伝統を積み上げてくださった、これま

での先生方に感謝です。

【西前】稲治先生の存在も大きいですよ。ご高名な先生でありながら、患者さんに対してだけでなく、我々にも誠意を持って接してください。

【高橋】本当にそうですね。私も10年以上の経験を積んで、自分なりの考えも持つようになりましたが、日常診断で悩む機会はまだまだたくさんあります。そんな時、歳の近い先生に相談するのは容易でも、上の先生方に教える請うのはなかなか大変なんですよ。「お忙しいだろうな」とか「こう言ったらまた怒られるかな」とか気になってしまつて(笑)。ですが稲治先生は、我々の質問や相談に対して、純粋に真摯にアドバイスをください

ますから、我々も躊躇なく意見を述べたり聞くことができます。医師として成長するために、本当に恵まれた環境だと思います。それを、患者さんに提供する医療の質へとつなげていかないと！

【大城】稲治先生なしには乳腺外科医チームは成り立たない。稲治先生は、センターの医学的・精神的支柱ですね。

### 認定看護師の活躍

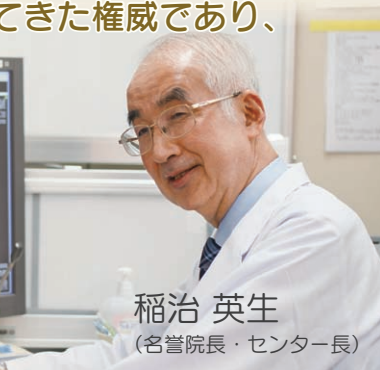
【高橋】チーム医療の視点から言えば、高い専門性を持った、コメディカルの力も大きいですよ。

【西前】病院が、認定看護師の育成に力を入れているというのは勿論ですが、「困っている患者さんのために、自分に何ができるのか」という思いで、認定看護師の道を選んでいるんでしょうね。皆さんとても積極的だし、行動が早いですよ。

日本乳癌学会学術総会会長など要職を歴任。  
我が国の乳がん治療を牽引してきた権威であり、  
当センターの支柱。

乳がん診療はデリカシーが求められることもあって、本来女性医師に向いた医療分野です。

当院では乳腺外科常勤医4名中3名が女性医師であり、まさに時代を先取りしています。この充実したスタッフを中心に、更なる飛躍を目指します。



稲治 英生  
(名誉院長・センター長)

【専門分野】乳腺疾患

【資格】日本乳癌学会認定医・専門医・指導医  
日本外科学会専門医・指導医  
外国人医師臨床修練指導医

【学会】日本乳癌学会名誉会員  
(第16回日本乳癌学会学術総会会長)  
日本内分泌外科学会特別会員  
日本臨床外科学会評議員  
日本分子腫瘍マーカー研究会特別会員

「The Best Doctors in Japan 2016-2017」  
「The Best Doctors in Japan 2018-2019」

## 乳がん看護外来

### 乳がん看護認定看護師

患者さんやご家族が抱える、様々な悩みのご相談に応じます。



## リンパ浮腫外来

### リンパドレナージセラピスト

乳がんの治療のため、リンパ節を切除することで起こるリンパ浮腫。リンパマッサージの実施だけでなく、ご自身でケアするための指導を行います。



## 外来化学療法センター

乳がん高度検診・治療センター内に併設。日常生活を行いながら、通院で化学療法が受けられます。

### がん化学療法看護認定看護師

がん化学療法薬の安全な取り扱いと、適切な投与管理の他、副作用症状の緩和やセルフケアの支援を行います。



## 乳房再建

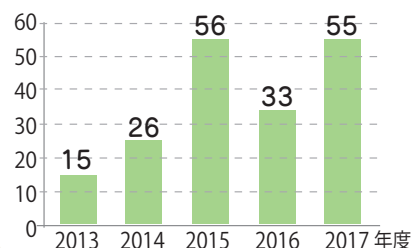
治療のための手術で失われた乳房を、形成外科の技術によって再建する手術です。

再建には、方法やタイミングなどの選択肢があり、当院では全ての再建手術が可能な施設認定を受けています。

- 1次再建 — 乳がんの根治手術と同時に再建を開始
- 2次再建 — 乳がんの根治手術後時間を置いて再建を開始
- 自家組織再建 — 自分自身の身体の一部を使う
- 人工乳房再建 — 人工乳房を入れる



《乳房再建手術件数の推移》



## より美しい乳房再建を実現する 形成外科医の視点

【高橋】当センターでは、形成外科医による乳房再建も行っていますが、これも非常に専門性の高い領域ですよね。

【西前】女性にとって、乳房の喪失感

【西前】医師と看護師との連携の良さは、大切なポイントですよ。このセンターでは、職種間の垣根が低いと思います。医師や看護師という職種を越えて、それぞれの専門性を尊重しないと。

## 患者さんの背景を知ること

【西前】乳房再建にしても、乳がん治療にしても、その選択の過程でとても重要なのが、患者さんの背景ですよね。サポートしてくれる家族がいるか、育児や介護など、置かれた状況によって治療方針も選択肢も大きく変わってきます。例えば、

## 患者背景の理解を診療へつなげる

やはり大きいかなと思います……。病状にもよりますが、再建希望のある患者さんには、選択肢の一つとしてお話しするようにしています。乳房再建は、乳がん治療の延長だと考えているんです。

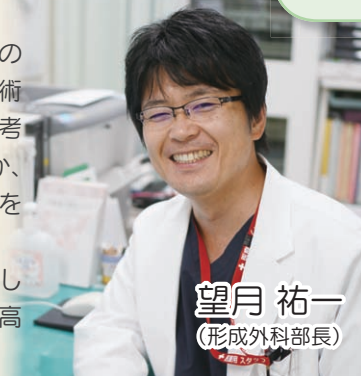
【大城】「どこまで切除して、どんな治療を行えば、患者さんの命を救えるか」を

考える乳腺外科医。「乳がん手術で、皮膚のどこをどう切り、筋肉や脂肪をどう残して、乳房再建手術に繋げるか」を考える形成外科医。形成外科医の仕事は、乳房再建手術だけと思われがちですが、より美しい乳房再建に向けて、乳がん手術の術式の選択にも、重要な役割を担っているんです。

## 形成外科医の専門性を発揮する乳房再建手術で、よりきれいな乳房をつくる。

よりきれいな乳房を作るために、求められるのが、身体表面の状態を改善する形成外科医の技術と専門性です。乳房再建の内容やタイミングを考えた上で、どのように「乳がん手術」を行うのか、乳がん手術の段階から、乳腺外科との密な連携をはかりながら、乳房再建を行っています。

乳房の喪失という身体的・精神的な問題を少しでも解決できるよう、治療の満足度をより一層高めるため、これからも取り組んでいきます。



望月 祐一  
(形成外科部長)





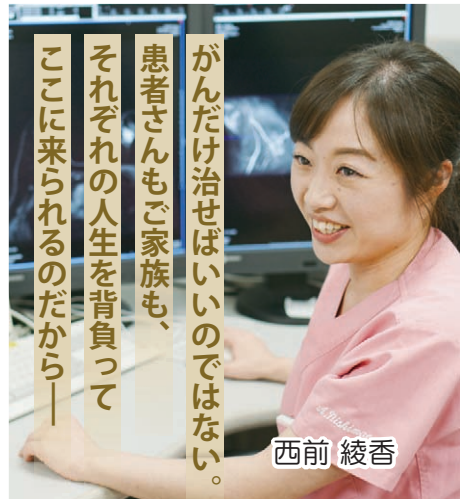
高橋 裕代

構えず素の状態の言葉から、  
今、何を感じているのかを知る。  
まずは、そこからです。

【高橋】そうですね……私から先に、不要な情報は与えないことでしょうか。質問や情報をこちらから出してしまつと、答えることや考えることが先になり、患者さんの思いが出にくくなると思うんですね。だから、まずは何もない状態で「どうしましたか」から始めます。

### 患者さんの思いを引き出すこと

すよね、時には泣き声も。「同じ女性だから話しやすい」と患者さんが思つてくだされば、乳腺外科を選んだ我々としても嬉しいですね。高橋先生は何か心掛けていることはありますか？



西前 綾香

がんだけ治せばいいのではない。  
患者さんご家族も、  
それぞれの人生を背負つて  
ここに來られるのだから――

わつてきました。医師の言うことに従うのではなく、情報を提供し相談しながら、最終的に治療を決めるのは患者さん自身です。ですから、患者さんの思いを引き出すことは、とても大切ですね。

【西前】その分、

判断を迫られる患者さんの負担が、大きくなったとも言えます。患者さん

が、考えられない状態になることもありますから。

【高橋】確かに。

患者さんによつ

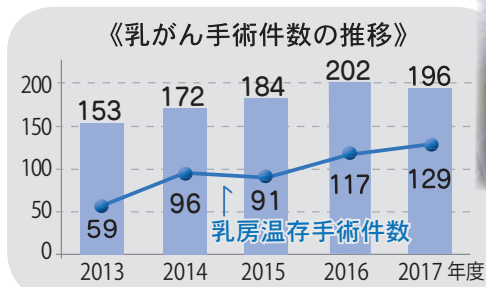
て、知りたい情報内容や、受け入れられる情報量は違います。だから、今の段階で何を伝えるべきかをよく考えないと。

【大城】乳がん治療は、手術・薬物療法・放射線治療の組み合わせの中で、

「オーダーメイド治療」と呼ばれるほど、個別化が進んでいます。医療のプ

ロとして、どれだけ分かりやすく、判断しやすくアドバイスできるか。それには、患者さんの病状だけでなく、患者背景への理解が必要です。

【西前】とは言え、それぞれ違う個性を持った患者さんに、どう提案すれば良いか、多職種合同のカンファレンスでは討



## 緩和医療までの一貫した体制が 診療の幅と質を高める

### 緩和と治療の垣根を越えて

【大城】がんの診療で、治療と同時に重要なのが緩和医療です。緩和イコール終末期のイメージが根強いですが、決してそうではないんですよ。

身体的な苦痛だけでなく、精

神面も含め、がん告知と同時

に緩和医療は始まります。

【西前】緩和ケア病棟は、積

極的な治療をしないことが前提ですが、療養環境のいい緩和ケア病棟に一時的に入院し

て、状態が良くなつてから、

乳腺外科で治療を再開される

方もいらつしやいますよね。

【大城】緩和の体制が整つて

いない施設だと、緩和ケア病

棟に入るためには転院となるわけで、治療と緩和のラインが明確に引かれてしま

います。だから「もう治療ができないんですね」と身構えてしまつし、中には「先

生に見放された」と思われる方も……。

その点当院は、緩和ケア病棟があり、緩和ケアを専門とする川上先生やがん性疼

議しきれない事も多いんです。そんな時は、稲治先生も含め我々3人が声を掛け合つて、ミニカンファレンスを開く。技

術面だけでなく、色んな意見を率直に出し合える、その関係が、患者さんの診療へとつながっています。



大城 智弥

緩和と治療の垣根を越える  
だからこそ、できることがある。  
医師である私にとつても  
恵まれた環境です。

### 緩和ケア病棟でも主治医は我々

【高橋】同じ病院内に緩和ケア病棟があつて、治療担当医が患者さんの状況をしっかりと把握できるからこそです。当院では、緩和ケア病棟に移つても、我々が主治医ですから。

痛看護認定看護師もいて、緩和医療体制が整っています。

【西前】緩和ケア病棟に入院していても、患者さんの状況や希望に合わせて柔軟な対応ができることが大きいですね。治療中に痛みなどの症状が強くなつてきた場合は、川上先生に相談しています。

## 遺伝性乳がん検査

乳がんの5～10%は、遺伝的な要因があると言われています。

当院では、遺伝カウンセリング・遺伝子検査も行っています。



## トモシンセシス(3D撮影)マンモグラフィ

最新技術トモシンセシス(3D撮影)機能を持つマンモグラフィ(乳房専用レントゲン検査)を導入しています。

トモシンセシスでは、X線管が移動しながら、1mm間隔の乳房の断層画像を作成。乳腺に隠れて発見しにくかった病変も、発見しやすくなります。



◎検診では、人間ドックのオプションメニューとして、通常のマンモグラフィにプラスして使用できます。

自分を、そして家族を守るために

『乳がん検診』を受けましょう！

### 乳がん検診受診率の低い大阪府

【高橋】何より早期発見早期治療！だから検診が大事！なんです。残念ながら、大阪府は、がんの死亡率が高く、がん検診の受診率は低いんです。『乳がん検診受診率』の都道府県別ランキングでは、例年ワースト5に入るほどの低さなんです。……。

【西前】乳がんは、女性の中では最も罹患率が高いんですが、定期的に検診を受けて、早期治療ができれば、決して予後が悪いがんではありません。乳がんの罹患率は、30歳代から増加し始めて、40歳後半がピークになります。ですから、小さなお子さんを持つ方や、

家族の中心となる方が罹る場合も多いんです。だからこそ「自分は大丈夫」や「めんどくさい」と思わず、『乳がん検診』を受けていただきたい！

【大城】当センターでの『乳がん検診』の触診は、原則的に女性医師が行なっています。「女性の先生なら検診も受けてみようかな」と思っていたら、受診につながれば嬉しいですね。

### 高いマンモグラフィ読影精度

【大城】『乳がん検診』に求められるのは、その精度です。マンモグラフィの画像から、僅かな疑わしい箇所を見つけることは重要ですが、不必要な方にまで「要精査」を出してしまうことも問題で

す。がんでない方に、精神的・経済的負担をかけてしまいますから。不慣れた医師や施設では、判断が難しいため、この「要精査率」が上がってしまう傾向がありますね。

【西前】当センターでの読影は、マンモグラフィ読影医の資格を持つ医師が2名で行っています。一次読影は放射線科医、二次読影は我々乳腺外科医です。中でも放射線科の沢井先生は、『検診マンモグラフィ読影講習会講師』で、医師に教える立場。各地の講習会で、読影技術の向上に尽力されています。当センターの読影精度の支えですね。

【大城】それに、過去に当センターで受診された方は、過去の画像との比較読影を徹底して

【大城】読影精度の追求が、患者さんの命を救う。機器の進歩に負けないよう、研鑽を積み重ねなければなりません。

【大城】技術が進歩して、より鮮明な画像が得られるようになりましたが、重要なのは診断をくだす医師の目です。

【大城】読影精度の追求が、患者さんの命を救う。機器の進歩に負けないよう、研鑽を積み重ねなければなりません。

【大城】読影精度の追求が、患者さんの命を救う。機器の進歩に負けないよう、研鑽を積み重ねなければなりません。

### 乳腺専門医による触診

【西前】触診も必ず乳腺専門医が行っているのも、稀なんじゃないでしょうか？触診は、医師であれば科に関係なく誰でもできます。そうすると、読影と同じく不慣れたために、問題のない方まで引っかけってしまうケースも、少なくないんです。

【西前】触診も必ず乳腺専門医が行っているのも、稀なんじゃないでしょうか？触診は、医師であれば科に関係なく誰でもできます。そうすると、読影と同じく不慣れたために、問題のない方まで引っかけってしまうケースも、少なくないんです。

【西前】触診も必ず乳腺専門医が行っているのも、稀なんじゃないでしょうか？触診は、医師であれば科に関係なく誰でもできます。そうすると、読影と同じく不慣れたために、問題のない方まで引っかけってしまうケースも、少なくないんです。

《乳がん検診受診者数の推移》



乳がん 高度検診・治療センター NEW-す



乳がん関連の最新の情報を分かりやすく解説！！HPに掲載しています。是非ご覧ください。